

JAMの主張

「組織拡大」と「組織強化」 JAM版組織拡大手法の確立を

【機関紙JAM・2025年10月25日発行 第321号】

「新しいJAMに向かって ―現場の声ではたらくを変えよう―」のスローガンの下、2026・2027年度の運動がスタートしました。

2026年春季生活闘争における格差是正、財政基盤の強化、共済運動強化、とりわけ個人共済の加入促進など課題は山積していますが、特に力点をおかなければならない取り組みは「組織拡大」と「組織強化」です。

JAMは1999年に構成組織数2,357単組、467,297人で誕生しました。しかし、2024年10月現在の組織現勢は、オブ加盟を含め1,802単組、388,422人となり組織数では555単組78,875人が減少しています。

大手労組会議、業種別部会、地方JAMの取り組みにより毎年新加盟組合の実績をあげているものの、解散・離脱組合が加入組合を上回り減少に歯止めがかからない状態が続いています。

今、JAMにとって、組織拡大は至上命題と言えます。他産別が保有する組織拡大の手法に加え、この間、組織変革プロジェクトを通じて連携を深めてきたドイツの産業別労働組合IGメタルの取り組みを参考にしたJAM版組織拡大手法の確立が急務です。

IGメタルは組合員数の持続的な減少を契機として2007年前後に組織と運動のあり方について極めて深刻な総括を行い、2009年に提議された「ディスカッション・ペーパー」＝「成功し続けるための変革」にもとづき運動の全領域で大規模かつ大胆な戦略的転換を図りました。この転換の基調となったのが「トップダウン」から「ボトムアップ」への活動スタイルの根本的・全面的な転換であり、全組合員に対するIGメタル組合員としての自覚の醸成とIGメタルの活動への積極的な「参画」の促進でした。

このような組合民主主義の画期的な質的強化を基軸とした戦略転換を組織拡大・発展に結びつけています。

IGメタルの戦略的転換の事例をあげると第一に新たな組合員の獲得・組織拡大を中核的任務に据え、第二に派遣労働者をはじめとする不安定雇用労働者の組織化と待遇改善、第三に「キャンペーン」を主な手段として展開する政治闘争への戦略的転換、など五つの柱となる戦略をもって取り組みを推進しました。このことにより減少し続けてきた組合員数は2010年に底を打ち、以降拡大を続けています。

IGメタルの成功事例は新しいJAMの確立をめざす私たちにとって示唆に富むものであり気づきを与えてくれています。

一方、組織強化も重要な活動の一つです。第5回単組活動実態ヒアリング調査の結果によると、単組内で定期的な「職場討議」を実践している単組が年々減少しています。これは労働組合活動の基本とも言える職場民主主義・現場民主主義が停滞しているとも言えます。執行部と組合員が直接対話できる「職場討議」こそが単組活動の強化に繋がります。

各単組で積極的な職場討議を展開し、現場の声ではたらくを変える取り組みを強化するとともに、組織の総力を結集し組織拡大・組織強化の前進を図らなければなりません。

共に頑張りましょう。

JAM書記長 岩崎和人